

2025年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名：税法III	
担当教員名：金子輝雄	
<p>授業科目概要：</p> <p>本講義では、個々の租税法令の適切な解釈適用が行えるよう、租税法全般に共通する基礎理論の修得を目指して、前半は租税法序説として租税の意義、基本原則、解釈と適用等を扱い、後半は、納税者の権利を擁護し健全な納税慣行を維持することを念頭に、国税通則法、国税徴収法、租税救済法、租税制裁法等のいわゆる税務行政手続法分野を扱う予定である。加えて、論点を理解するために、適宜、重要判例を取り上げ検討する。なお、受講者の要望があれば、後半は租税実体法である法人税法や所得税法の所得課税制度の検討に代えてもよい。年々高まる財政需要に対する税負担の増大という状況にあつて、租税の公平性がより一層求められ、また、国民主権としての納税者の権利を考えると、税の用途についても厳しく問われることとなろう。税制を取り巻く環境の変化を念頭に、租税法令を解釈した課題を見出すことも必要である。</p>	
<p>履修上の留意事項：</p> <p>研究論文の作成を見据えた学修が望まれる。以下の指定教科書等と講義内容はあくまでも予定であり、ある程度研究テーマを絞り込んでいる受講者のために、当該テーマに即したより専門的な文献に変更するなど、柔軟に対応する予定である。</p>	
教科書・参考書（参考文献）	
書名：新税法理論 著者／編者：関子善信 出版社：成文堂 出版年：2025年	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：
書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：
書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：
<p>評価方法及び評価基準：出席状況、質疑応答の頻度、理解の程度等を総合的に勘案して決定する。60点未満を F、60～69点を C、70～79点を B、80点以上を A とする4段階とし、C 以上の評価に単位を与える。</p> <p><各評価の基準></p> <p>A 評価 授業内容を応用できるのみならず、批判的にとらえることを含めて、当該理解をさらに発展させられること</p> <p>B 評価 授業内容の理解に基づいて、より広いケースにその理解を応用できること</p> <p>C 評価 授業内容について、概ね理解していること</p>	
<p>授業目標及び進め方：</p> <p>回毎に取り上げられるテーマについて、指定した教科書の部分を精読し、レジュメとしてこれをまとめ、発表してもらおう。教師と受講生が議論を重ね理解を深めていく。</p>	

第 1 回	テーマ：租税法律関係序論 内 容： 教科書 / 参考書 第1部第1章
第 2 回	テーマ：税法律関係の構造 内 容： 教科書 / 参考書 第1部第2章
第 3 回	テーマ：税額確定理論 内 容： 教科書 / 参考書 第1部第3章
第 4 回	テーマ：付随的税金債務 内 容： 教科書 / 参考書 第1部第4章
第 5 回	テーマ：税金債務の消滅 内 容： 教科書 / 参考書 第1部第5章
第 6 回	テーマ：還付債権 内 容： 教科書 / 参考書 第1部第6章
第 7 回	テーマ：税法の執行者 内 容： 教科書 / 参考書 第 2 部第 1 章
第 8 回	テーマ：税法上の調査 内 容： 教科書 / 参考書 第2部第 2 章
第 9 回	テーマ：質問検査権等 内 容： 教科書 / 参考書 第2部第3章
第10回	テーマ：租税回避 内 容： 教科書 / 参考書 第2部第4章
第11回	テーマ：税金債務の争訟通論・不服審査 内 容： 教科書 / 参考書 第3部第1・2章
第12回	テーマ：課税処分取消訴訟とその本質 内 容： 教科書 / 参考書 第3部第3・4章
第13回	テーマ：その他の救済争訟 内 容： 教科書 / 参考書 第3部第5章
第14回	テーマ：税法における罰則規定 内 容： 教科書 / 参考書 第4部第1章
第15回	テーマ：犯則事件の調査 内 容： 教科書 / 参考書 第4部第2章